

「もう、忘れていいよ。わたしがここで、覚えてるから」

「標的の村」標的の島風かたか
三上智恵
×
「プロットは僕だった」
大矢英代

沖縄スパイ戦史

監督:三上智恵・大矢英代
プロデューサー:橋本佳子、水卜繁貴
撮影:平田守 編集:鈴尾登太 監督補:比嘉真入 音楽:藤井祐二
協力:琉球新報社、沖縄タイムス社
製作協力:沖縄記録映画製作を応援する会
製作:DOCUMENTARY JAPAN、東風、三上智恵、大矢英代
配給:東風
2018/日本/DCP/114分/ドキュメンタリー

ふたりのジャーナリストが迫った沖縄戦の最も深い闇。
少年ゲリラ兵、戦争マラリア、スパイ虐殺……
そして、ついに明かされる陸軍中野学校の「秘密戦」とは?

www.spy-senshi.com

沖縄スパイ戦史 監督:三上智恵・大矢英代

- 第二次世界大戦末期、米軍が上陸し、民間人を含む24万人余りが死亡した沖縄戦。第32軍・牛島満司令官が降伏する1945年6月23日までが「表の戦争」なら、北部ではゲリラ戦やスパイ戦など「裏の戦争」が続いた。作戦に動員され、銃を持ち故郷の山に籠って米兵たちを翻弄したのは、まだ10代半ばの少年たち。彼らを「護郷隊」として組織し、「秘密戦」のスキルを仕込んだのが日本軍の特殊機関、あの「陸軍中野学校」出身のエリート青年将校たちだった。
- 1944年の晩夏、大本営が下した遊撃隊の編成命令を受け、42名の「陸軍中野学校」出身者が沖縄に渡った。ある者は偽名を使い、学校の教員として離島に配置された。身分を隠し、沖縄の各地に潜伏していた彼らの真の狙いとは。そして彼らがもたらした惨劇とは……。
- 少年ゲリラ兵、軍命による強制移住とマラリア地獄、やがて始まるスパイ虐殺……。戦後70年以上語られることのなかった「秘密戦」の数々が一本の線で繋がるとき、明らかになるのは過去の沖縄戦の全貌だけではない。
- 映画は、まさに今、南西諸島で進められている自衛隊増強とミサイル基地配備、さらに日本軍の残滓を孕んだままの「自衛隊法」や「野外令」「特定秘密保護法」の危険性へと深く斬り込んでいく。



【監督 三上智恵さんのプロフィール】

ジャーナリスト、映画監督。1987年、アナウンサー職で毎日放送に入社。95年、沖縄朝日放送の開局時に沖縄に移住。同局のローカルワイドニュースのメインキャスターを務めながら、「海にすわる～辺野古600日の闘い～」「1945～島は戦場だった オキナワ365日～」「英霊か犬死にか～沖縄から問う靖国裁判～」など、沖縄の文化、自然、社会をテーマに多くのドキュメンタリー番組を制作。2010年、日本女性放送者懇談会放送ウーマン賞を受賞。12年に制作した「標的の村～国に訴えられた沖縄・高江の住民たち～」は、ギャラクシー賞テレビ部門優秀賞、座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル大賞など多くの賞を受賞。劇場版「標的の村」でキネマ旬報ベスト・テン文化映画部門第1位、山形国際ドキュメンタリー映画祭で日本映画監督協会賞・市民賞をダブル受賞。14年にフリー転身。15年5月に「戦場ぬしみ」、17年3月に「標的の島 風かたか」を劇場公開。これまですべての映画作品が山形国際ドキュメンタリー映画祭の招待を受ける。著書に「戦場ぬしみ 辺野古・高江からの祈り」(大月書店)、「女子力で読み解く基地神話」(島洋子氏との共著/かもがわ出版)、「風かたか『標的の島』撮影記」(大月書店)がある。

killed spy position /

戦後70年以上語られなかった 陸軍中野学校の「秘密戦」、明らかにするのは過去の沖縄戦の全貌だけではない。

第二次世界大戦末期、米軍が上陸し、民間人を含む24万人余りが死亡した沖縄戦。第32軍・牛島満司令官が降伏する1945年6月23日までが「表の戦争」なら、北部ではゲリラ戦やスパイ戦など「裏の戦争」が続いた。作戦に動員され、銃を持ち故郷の山に籠って米兵たちを翻弄したのは、まだ10代半ばの少年たち。彼らを「護郷隊」として組織し、「秘密戦」のスキルを仕込んだのが日本軍の特殊機関、あの「陸軍中野学校」出身のエリート青年将校たちだった。

1944年の晩夏、大本営が下した遊撃隊の編成命令を受け、42名の「陸軍中野学校」出身者が沖縄に渡った。ある者は偽名を使い、学校の教員として離島に配置された。身分を隠し、沖縄の各地に潜伏していた彼らの真の狙いとは。そして彼らがもたらした惨劇とは……。

少年ゲリラ兵、軍命による強制移住とマラリア地獄、やがて始まるスパイ虐殺……。戦後70年以上語られることのなかった「秘密戦」の数々が一本の線で繋がるとき、明らかになるのは過去の沖縄戦の全貌だけではない。

映画は、まさに今、南西諸島で進められている自衛隊増強とミサイル基地配備、さらに日本軍の残滓を孕んだままの「自衛隊法」や「野外令」「特定秘密保護法」の危険性へと深く斬り込んでいく。

「散れ」と囁くソメイシシ
「生きろ」と叫ぶカンヒザクラ
長期的緻密な取材で本作を作り上げたのは二人のジャーナリスト。映画「標的の村」の「戦場ぬしみ」「標的の島 風かたか」で現代の闘いを描き続ける三上智恵と、学生時代から八重山諸島の戦争被害の取材を続けてきた若き俊英・大矢英代。

少年ゲリラ兵、軍命による強制移住とマラリア地獄、やがて始まるスパイ虐殺……。戦後70年以上語られることのなかった「秘密戦」の数々が一本の線で繋がるとき、明らかになるのは過去の沖縄戦の全貌だけではない。

映画は、まさに今、南西諸島で進められている自衛隊増強とミサイル基地配備、さらに日本軍の残滓を孕んだままの「自衛隊法」や「野外令」「特定秘密保護法」の危険性へと深く斬り込んでいく。

「沖縄スパイ戦史」
応援団募集中!

チラシ、ポスターの配布や前売券の販売協力をしていただける応援団を募集しています。
詳しくは東風(とうふう)までお問い合わせください。 E-mail:info@tongpoo-films.jp
TEL:03-5919-1542(平日11時～18時) | FAX:03-5919-1543

@spy_senshi
fb.com/spy.senshi
www.spy-senshi.com

三上智恵さんのお話を続けてみる会

「沖縄スパイ戦史」を見た今だからこそお話を、監督に直接質問したり、
①エピソードや沖縄のお話をたくさんきましよう!!

